

# 平成24年度 江戸川区子ども・子育て応援会議

## 議 事 要 旨

---

日 時 平成25年3月14日(木) 午後3時から  
場 所 グリーンパレス 常盤  
事 務 局 子ども家庭部子育て支援課

### 【議 事】

1. 子ども家庭部長あいさつ
2. 子育て支援の実施状況
3. 子ども・子育て支援新制度について
4. 意見交換

### 【配布資料】

- ◇ 次第
- ◇ 江戸川区子ども・子育て応援会議委員名簿
- ◇ 江戸川区子ども・子育て応援会議設置要綱
- ◇ 資料1 江戸川区次世代育成支援行動計画(後期計画)実績<平成23年度>
- ◇ 資料2 平成25年度の子育て支援新規拡充等事業
- ◇ 資料3 中央育成室の定員拡大
- ◇ 資料4 子どもと家庭の「おとなりさん」事業
- ◇ 資料5 児童虐待「対応事例」と地域の関わり方
- ◇ 資料6 子ども・子育て関連3法の成立について
- ◇ えどがわ子育てガイド

## 江戸川区子ども・子育て応援会議 委員名簿

|    | 所属機関・役職名                              | 氏 名    | 備考                                 |
|----|---------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1  | お茶の水女子大学教授<br>江戸川総合人生大学子ども・子育て応援学科学科長 | 三輪 建二  | 委員長                                |
| 2  | 民生・児童委員協議会 東部第二地区会長                   | 金子 敏枝  | 欠席                                 |
| 3  | 青少年育成地区委員長会会長                         | 田中 稔家  | 副委員長                               |
| 4  | 青少年委員会会長                              | 宮本 道子  |                                    |
| 5  | 江戸川区私立幼稚園協会会長                         | 田澤 茂   |                                    |
| 6  | 江戸川区私立保育園園長会会長                        | 秋山 秀阿  |                                    |
| 7  | 江戸川区立小学校長会会長                          | 田中 浩二  |                                    |
| 8  | 江戸川区立中学校長会会長                          | 蓮沼 千秋  | 欠席                                 |
| 9  | 江戸川区医師会理事                             | 千葉 友幸  |                                    |
| 10 | 江戸川区歯科医師会副会長                          | 古川 隆彦  |                                    |
| 11 | 東京商工会議所江戸川支部会長                        | 平田 善信  | 欠席                                 |
| 12 | 青少年育成アドバイザー                           | 山本 又三  | 欠席                                 |
| 13 | 江戸川区私立幼稚園協会 PTA 連合会会長                 | 宮田麻津子  |                                    |
| 14 | 江戸川区私立保育園保護者連絡協議会理事長                  | 長尾 良子  | 欠席【代理】近藤 眞理<br>江戸川区私立保育園保護者連絡協議会顧問 |
| 15 | 江戸川区立小学校 PTA 連絡協議会会長                  | 宇田川公一  |                                    |
| 16 | 江戸川区立中学校 PTA 連絡協議会会長                  | 森本康二郎  |                                    |
| 17 | 公募区民                                  | 岩楯 松江  |                                    |
| 18 | 公募区民                                  | 仁志川 明美 |                                    |
| 19 | 健康部長                                  | 松尾 広澄  | 欠席【代理】岡崎 由紀夫<br>健康サービス課長           |
| 20 | 子ども家庭部長                               | 畔柳 文泰  |                                    |

## 【議事要旨】

### 1 開会

### 2 子ども家庭部長あいさつ

### 3 子育て支援の実施状況

(三輪委員長) 皆様こんにちは。本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。次第に沿って事務局から説明をしていただきたいと思います。その後、意見交換の時間をとり、意見やご質問、自己紹介などをしていただければと思います。そのような進行でよろしいでしょうか。

(一 同) はい。

(三輪委員長) それでは、説明をお願いいたします。

(事務局) 資料について順番に説明をさせていただきます。

**資料1** (江戸川区次世代育成支援行動計画(後期計画)実績 平成23年度 )

この計画は、平成17年度から26年度までの子どもと子育て支援のための計画です。本日は昨年公表した23年度の実績をお配りしております。計画の前期と後期では、追加した事業、指標を見直した事業もあり、21年度と23年度で実績の記載の仕方が異なっているものもありますが、後ほどご覧いただければと思います。

**資料2** (平成25年度の子育て支援新規拡充等事業)

資料2-1「子ども家庭部関係予算」

子ども家庭部で関係する予算をまとめたものです。現在、区議会の審議中で、来週3月21日の最終議決で確定する予定です。平成25年度の歳入は約161億円、歳出は447億円となっています。歳入・歳出ともに予算額は減少しています。これは、24年度の児童手当等の金額を適正な規模で予算計上したことが主なものです。

平成12年度の歳出が270億円でしたので、約2倍子ども関係の予算が増えています。大きな要因としては、子ども医療費助成の対象者の拡大や児童手当の対象者、金額が拡大されたことがあります。子ども家庭部関係の予算は24年度から比較すると減少ですが、長い年月の間では大きく伸びているということをおわせてご理解いただければと思います。

資料2-2-(1)「私立保育園の新設等」

25年度にかけ、私立保育園の新設が1園あります。都営新宿線篠崎駅近くの篠崎わんぱく保育園で、0歳から5歳まで、定員99名を擁する保

育園です。増築をして定員を拡大するのが、船堀駅前のマリヤ保育園です。改築により定員を増加させるのが区立葛西保育園です。3か所合わせて、来年度の保育園定員は161名増加する予定です。

江戸川区は区立保育園の民営化を順次進めていますが、25年4月1日から区立南葛西保育園を私立南葛西おひさま保育園として新たにスタートする予定です。これにより、4月1日現在で、私立44園・定員5,512名、区立41園・4,781名となる予定です。

#### 資料2-2-(2)「一時保育事業」

保育園に通っていないお子様の保護者で、育児の疲れ、通院、ご両親の介護等、一時的に保育が必要になった場合の受入れ先を4園プラスし、私立保育園14園で実施します。定員は8名増員しまして32名になります。

#### 資料2-2-(3)「区立保育園給食調理業務委託」

合理化の観点で区立保育園の給食業務委託を実施します。

#### 資料2-2-(4)「中央育成室の定員拡大」

昨中央育成室を新設し、発達障害のお子様だけをお預かりして療育を行う施設を開設しました。こちらを4月1日より定員を拡大して実施していきます。

#### 資料2-2-(5)「子どもと家庭の「おとなりさん」事業」

新しく事業を開始します。虐待に関しては、子ども家庭支援センターで虐待通報、子どもの見守り等について受けているところですが、地域で虐待を防止する目をより広げていこうということで、地域の方のご協力をいただきながら子育ての支援、家庭の支援を行うという事業となっています。

#### 資料2-2-(6)「読書科」

区内全ての小・中学校で教育課程の一部として既に取り組んでいるものですが、読書を通じ、論理的思考力や読解力、言語理解能力等の知識や能力を高めていこうと実施をしているものです。

先ほどご説明いたしました「中央育成室の定員拡大」、「子どもと家庭の「おとなりさん」事業」について、担当課長から詳しく説明をいたします。

#### (保育課長)資料3(中央育成室の定員拡大)

江戸川区には、育成室が3室あります。1歳6か月から就学前までの障害のあるお子様が保護者の方と一緒に通室して療育を行う施設で、3室に300名以上のお子様が通っています。今までは肢体不自由のお子様や知的な障害のあるお子様を中心に療育をしていましたが、現在は6割から7割の方が発達障害、あるいは配慮の必要なお子様という現状です。

そこで、区立鹿本幼稚園の一室を改造して、1日の定員22名という小規

模ではありますが、発達障害のお子様の特化した施設として中央育成室を23年9月1日に開設しました。

育成室の定員は保育園や幼稚園等と違い、1日の利用定員です。午前と午後のクラスがあり、それぞれの定員が11名ですので合計22名になります。午前のクラスは週に3日（月水金）通う3,4,5歳児のクラスが1クラスと、週に2日通う1,2歳児が1クラス、午後は主に週に1日通うクラスとなっていて、現在78名の方が在籍しています。

（児童女性課長）[資料4](#)（子どもと家庭の「おとなりさん」事業）

子どもと家庭の「おとなりさん」事業というのは、昔のご近所さんというイメージのボランティアを育成しようということで、24年度から講座を行っているところです。昨年10月～12月にカリキュラムを組み、子どもの発達のことや、精神的に課題のある保護者がいる家庭の問題等の講義をして、そのような家庭に行っていただけるボランティアを育成しました。広報等で公募し、30人ほどの方に集まっていただき、今29人を指定しております。実際には4月からになりますが、ご家庭の承諾をいただいた後、その家庭に行っていただき、生活についての指導や支援、乳幼児のお母さんには育児支援等を行います。有償ボランティアで、1回3時間程度で3,500円をお支払いしようと考えています。

[資料5](#)（児童虐待「対応事例」と地域の関わり方）

児童虐待に関しては、現在は400人ぐらいの子どもの見守りしていますが、虐待を発見することが難しいという話をよく聞きますので、よくある事例を3つ紹介した資料を作成しました。

#### 4 子ども・子育て支援新制度について

（子ども家庭部長）[資料6](#)（子ども・子育て関連3法の成立について）

最近新聞で、子ども・子育て関連3法や子ども・子育て支援新制度等の記事が見受けられるようになったかと思います。今回はその概要についてご説明をさせていただきたく資料を作成しました。

法の施行日は政令で定める日となっていて、「恒久財源を得て早期に本格実施」と記載しています。消費税増税が最終的に決定されないと、子ども・子育て関連3法の本格実施が見えないというところもありますが、現在は予定どおり増税するというところで準備が進んでいます。

2ページ目は子ども・子育て関連3法の概要を図で表したものになります。教育・保育施設は、認定こども園、保育園、幼稚園等の施設が含まれていて、0～5歳児を預かる施設になります。

認定こども園の設置形態は幼保連携型、幼稚園型、保育園型、地方裁量型の4種類があります。当初政府が予定していたとおりに設置が進んでいないという現状を修正するために今回法改正され、幼保連携型の認定こども園を

中心に整備を進めていこうというものが関連3法のうちの一つの法律となっています。

4つの形態のうち、幼保連携型認定こども園というのは、幼稚園と保育園が合体した施設で、0～5歳までのお子さんをお預かりします。認可幼稚園と認可保育園が一つの施設の中に存在し、1人のお子さんに教育・保育をするという二つの機能を果たす役割の施設です。

教育・保育施設にお子さんを預けると、施設型給付という国や地方公共団体から公的な給付が出ることとなります。国・東京都・市町村がそれぞれ財源を出し合い、運営経費の一部を給付として支給するというものです。

特に待機児童が多い0～2歳児に利用していただくために、新たに公的給付の対象となる4種類の施設を地域型保育事業として法律の中に規定しています。小規模保育、家庭的保育、居宅訪問型保育、事業所内保育の4種類で、現在は認可外保育施設となっています。こうした認可外保育施設でも待機児童の解消に一定の役割を果たしているというような法律の位置づけをして、一定の基準と役割を果たせば地域型保育給付の対象にするというのが、今回の関連法律の中の一つの特徴となります。

そのほかに、地域子ども・子育て支援事業を市町村が積極的に実施をするということで、病児・病後児保育、乳児家庭全戸訪問事業、延長保育事業、一時預かり事業等をしっかり市町村で行う。市町村子ども・子育て支援事業を基本的な計画として5年毎に定め、長期計画の中ではそれぞれの市町村のエリア内で必要な事業量、子どもの数の推移、保育ニーズ等をきちんと計画の中に取り込むという規定を設ける。努力義務ではありますが、計画を立てる際には役所だけではなく、関係者の方々の意見を聞く会議を設ける。こうしたことも法律の中にうたわれています。

住民と市町村の関係については、就学前のお子様の保護者から、それぞれの施設を利用するに当たって資格があるかということ申請していただき、市町村がその申請に基づいて保育の必要度等を認定して、認定証をお渡しをするというような手続が法の中で示されています。教育・保育施設や地域型保育事業を利用しようとするときは、保護者の方は認定証を持ってそれぞれの施設に申し込みをするということになります。申し込みを受けた施設は、基本的に定員の枠内であれば必ず受け入れなければならないという規定になっています。

25、26年度にかけて準備をし、順調に行けば27年度からこうした枠組みで0～5歳児の教育・保育を行っていくというのが、子ども・子育て関連3法の大きな枠組みとなっています。

3枚目は、国、地方公共団体がそれぞれ実施をするスケジュールとなっています。

## 5 意見交換

(三輪委員長) これからは意見交換会ということで、ここまでの話を聞いて質問したいことや日ごろ仕事等を通じて考えていること、あるいは専門の立場や実際に子育てをしている立場として、自己紹介を兼ねてお一人ずつご意見やお考えをお話しただければと思います。

それでは座席順として、副委員長の田中委員からお願いしたいと思います。

(田中副委員長) 今地区委員会の中では、挨拶から始めようということで挨拶運動を行っています。4・5月を重点月間として、年間を通じてやっていて、そんな活動を各団体に広めようということでやっております。小・中学校も幼稚園も同じだと思いますが、園内ではよく挨拶できるようになっているかと思っています。それが地域に広がっていかないということが大きな問題ではないかと考えています。少しでも顔見知りの人だったら勇気を出して挨拶しようと、それで子どもたちが挨拶についてどういうふうを考えているかということを地域に知らしめようというような、そんな風に考えています。挨拶するときというのは非常に勇気が要ると思いますが、その勇気を少しでも引き出すために大人はどうすればいいかということを考えながら、挨拶運動を一生懸命やっております。

地域のつながりが出来ることが子どもを育てる一つの大きな力になると思っていますので、地域や各団体で繋がる意識を植えつけ、お互いに協力していくという考え方を広めたいと考えております。

(田澤委員) 先程保育園の定員拡充について説明がありましたが、幼稚園を運営する者として、保育園を作れば作るほど、定員を拡大すればするほど、家族関係が希薄になってしまうような気がしてなりません。この間の杉並区の事例等もあり、社会ではやむを得ないことだと思いますが、家庭の養育力を高める施策を考えていかなければならないと思います。

ひとり親が虐待をするということは、ひとり親になる前の家族の事情、その人の両親の子育て等もあり、いろいろな事情があったかと思っています。ですので、家族の絆を深める施策を江戸川区で考えていただければいいなと思います。

(田中委員) 小学校は、この会議の設置目的であります子どもの健全育成という部分に組織的・計画的に携わっているのではないかと考えています。学校の主な活動は、先ほどの次世代育成支援行動計画の教育委員会に関する部分で沢山挙げられています。その一端を担いながら活動を行っています。

現在皆さん方が一番興味をお持ちなのは、虐待・いじめ・不登校・体罰で、この4点が学校教育に突きつけられている課題の中でも大きなものではないかと考えています。

虐待に関しては家庭と地域で連携をしながら、不登校に関しては同じように特に家庭との連携をしながら、いじめに関しては学校外で起こることが

多々ありますので、地域の方々にあの行動はおかしいなという目を持っていただき、学校、関係諸機関と連携しながら解消を図っていかざるを得ないのではないかと考えています。体罰に関しては、今年に入りましていろいろ脚光を浴びているわけですが、これも学校の改める最優先事項ではないかと考えています。

「子どもの命は学校が守る」という基本姿勢に立ちながら、安全な場所は学校であるということ子どもたちの心の中に植え込めるよう、日々努力し、活動に努めていかなければいけないと考えています。そのためにも家庭と地域との共育、協働に努めていきたいと考えています。

(古川委員) 今日お話を伺いまして、大変だなというふうに思っています。「おとなりさん」事業は素晴らしいアイデアというか、やらざるを得ないのか、立派なことをやり始めたなと感嘆しております。我々歯科医師会としては、各ライフステージに合わせて健診事業で色々施設を訪ねさせていただいております。

私は葛西育成室で健診をやっておりますが、普通の健診よりも時間がかかりますが、なるべく親御さんと色々な話をして情報を得るよう努力しています。以前江戸川区で不幸な事故がありましたが、歯科医からの通報が発端だったと思います。そういう意味でも我々歯科医師会会員の先生に、こういう会議を行っていることを踏まえて健診事業をやっていくよう、周知の努力はしていきたいと思っています。

(近藤委員) 理事長の長尾の代理で来ました。虐待についてですが、保育園に通っている子どもの親として、ママ友達や親同士のネットワーク、そういう情報などを利用して発見するというのも一つの方法かなと思います。

(森本委員) 中学校では現在虐待や体罰等の問題がかなり多く取りざたされております。先ほど「子どもの命は学校が守る」という言葉がありましたが、基本は保護者が守るというスタンスでやっていかないといけないと思っています。子どもと向き合うことが一番大事なベースとなるのですが、子どもと向き合っていない親が非常に多いと思います。

学校に相談や苦情が来る中には、子どもの話を点で聞いて、その部分を理解せず突っ走っていく親や、単にエキサイティングな状況になっているような親も結構いると思います。対応する学校側も本当に大変だと感じますが、子育てについて、何かあってからではなく、保護者への教育、何か簡単に入れるようなことに取り組んでいただければと思います。特に中学校になりますと思春期ですので、ある程度形ができ上がってしまっています。子どもも小さいときに虐待を受けていたら、自分もそういうことを悪いと意識せずにやってしまうことがあると思います。小さな時からこつこつと、色々な意味で教育していくことを、ぜひとも頑張りたいと思います。

我々も保護者として、地域を巻き込んで子どもを守っていきたいと思っております。こういう会議があったことはもちろん役員の皆さんにはお伝えしますし、



少しでも広げていきたいと思ひます。

(仁志川委員) 下の子が幼稚園に入園し、上の子が小学校2年生になりました。自分も子育てをしていますし、資料の説明や皆さんの意見をお聞きし、思うところがすごくあります。周りに同じように子育てをしている方が沢山いるので、様々な意見が必要なきはぜひご協力させていただきたいと思ひます。

(健康サービス課長) 健康部長が欠席ですので、代理でお話しさせていただきます。

健康部全体では、区民の皆様、生まれたばかりの赤ちゃんから高齢者の方までのそれぞれのライフステージに沿った健康づくりに取り組んでいくことを一つの目標に掲げて取り組んでおります。

子ども・子育てということであると、やはり母子保健、生まれた赤ちゃんが健全に育って、小学生・中学生になり、やがて大人になっていくという中で、健全な体をつくるということもありますし、それを受けて心の部分をつくっていくということが、非常に大事ななと感じながら日々仕事をしております。

児童虐待のことや発達障害の部分でも、例えば1歳6カ月児健診や3歳児健診等で、少しでも気になる課題があればそれをいち早くキャッチし、適切な医療機関や療育機関を紹介したり、保護者へのアプローチの仕方やどう関わりを持てばいいのかということをお伝えすることもやっております。

そういった中で虐待や発達障害といった課題にも、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。健康サポートセンターだけではなく、地域の皆様に協力をいただきながら進めていければと考えておりますので、これからも色々とお力添えをよろしくお願ひいたします。

(岩楯委員) 一番下の子どもが中学生になりましたので、今すすくすくスクールのサポートセンターに勤めています。すすくすくスクールでの地域との関わり合い、ふれあいが、通っている子どもたちには大きいと思ひます。地域のサポーターの方は街で会った時に子どもが声をかけてくれるのはとてもうれしいとおっしゃっています。それがもっともっと広がるといいなと感じています。

発達障害のお子さん、今小学校でもかなりいるように思ひます。中央育成室を今回初めて知り、小さい時からこういうものがあることをもっと多くの方に知ってもらい、学校へ入る前に対処していくということが必要ではないかというのをすごく感じました。

体罰に関しては、息子の学校からアンケートがありました。運動部に入っているのですが「僕は、体罰としては感じてはないから、体罰はないと書いてください」と私たちに言いました。育つ環境によってすごく変わることがありますが、学校の先生というよりも、家庭の影響が大きいのではないかと痛切に感じました。

(宇田川委員) 今気になるのは、小学校のPTA会員の中でコミュニケーションやネットワークに乗りおくれしている保護者がいることです。よくママ友同士で、メール等で悩み事を相談し合うようなお母さんがいる傍ら、共働きの親やひとり

親の方には、お母さん同士のコミュニケーション・やりとりが疎遠になっていて、子育てにも影響している方がいるのではないかと感じています。

子どもと家庭の「おとなりさん」事業というのは、大変いいことだと思います。これからは共働きの親あるいはひとり親の方が、本当に仕事をしやすい環境をつくってあげ、子育てしやすい環境をつくっていただくことにより、子育てにもいい影響が出るのではないかと思います。子ども・子育て応援会議をどんどん発展させて、こういう問題も解決できたらと思っています。

(宮田委員) 私には小学校新5年生と、新1年生になる2人の娘がいます。私たち母親世代の一番の関心は、小学生では虐待・不登校・いじめ・体罰、幼稚園ママには親のグループ化があると思います。それに対する親のストレスが子どもにいつてしまう、といったことが課題としてあります。幼稚園PTAで幼稚園のお母さんの色々な意見を聞いて、会議に出席させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(千葉委員) 医師会の子どもの担当は大きく分けて、0～6歳までの担当をする小児育成保健委員と、就学～中学生までの学校保健委員の二つがあります。小児の責任者をしてありますが、学校保健委員の一員でもありますので、両方までお話をしたいと思います。

母子保健に関しては、予防接種が大分増え、そのために3カ月健診に影響が出ておまして、BCGと3カ月健診は切り離されると思います。今まで予防接種のために健診に来ていた人がいましたので、BCGが別になると、受診率が下がることを心配しています。健診も、ただ単に身長、体重が増えていればいいということではなく、心の問題も含め中身の問題が優先します。それには今の1歳半～3歳の健診だけでは心の問題までフォローできません。医師会では障害を個性と捉えていますのであまり障害という言葉を使わないのですが、5歳児健診で就学前にその発達のほうの個性を見つけるには、早い段階でチェックする必要があるだろうとっております。医師会として、保護者が早期発見出来るよう、協力をしていきます。

虐待も、医師会では会員向けに虐待のSOSサインに対するスキルアップのための講習会を去年2回行っております。医師会員が日ごろの外来・健診でいかに早期に発見するかというお手伝いをしております。

小学校ではいじめや不登校問題が出てきますので、心身支援ネットワークというものを小児科医と小児心療の先生でつくっています。学校の保健室からSOSがあった場合に、そこに出向いてお話を伺うこともあります。一般の小児科では少し扱いにくいものもありますし、プライベートなことが絡んでくると、家庭に入ろうと思ってもなかなか家庭に入れてくれないこともあるので、限界を感じています。行政の力だけでは足りないこともあるかと思うし、医師会の力だけではできないこともあるので、今後力を合わせる必要だと思っています。

江戸川区内で中・高校生に聞きますと、区外へ出て新宿や渋谷、そういう盛り場でかなり遊んでいる子もいるようです。区外の産婦人科等から江戸川区の子たちが結構来ているという話があり、私の方にも1月から高校生の妊娠が2件来ています。婦人科に行けずに私のところに来るわけです。親には言えない、相手の男が未成年ということもあります。そういう場合、普段の家庭のしつけがしっかりしていないと特に問題だと思えます。

また、いじめについては、いじめられる子たちもいますが、自分からそういうところに入る子たちもいるので、携帯電話等が進んでくるとますますそういう問題が起こると思えます。この点にも注意が必要だと思っています。

最近5・6年生の日光等の移動教室が減って、ウィンタースクールになっています。地域のこども会等のために、日光の空いている施設を開放したほうが良いと思えます。私も町内会の仕事をいろいろとやっていますが、地域の教育力を育てることが大事だと思えます。また、子どもたちとざっくばらんに話すチャンスをつくれる場所があればいいなと思っています。子どもが減ってくれば1校空けて、そこは24時間いつ来てもいいですよ、オープンですよという場所をつくって、逃げ込み場所みたいなものをつくってもいいのではないかと思います。ほかに行って遊ぶよりは安心ということもあると思うので、そういう発想の転換が今後は必要だと思っています。

病児保育ですが、一般的には、子どもが病気のときには本来は親が休んで見るべきだということもあります。また、この事業を医院グループでやっているところもありまして、子どもたちのためではなく、病院のためという部分もあるように思えます。病気の子どもとは離れないでほしいという思いから、病児保育に必ずしも賛成しないという医者もいます。それも踏まえて、今後進めてほしいと思っています。

医師会としては今までのように待っているのではなく出ていこうと打ち出しています。共育プラザでの講演等にも参加しようと思っています。医師会では講師派遣に予算をとってありますので、地元の小児科医が行っているようなテーマに沿って話をさせていただきます。ぜひ使ってください。よろしくをお願いします。

(秋山委員) 区立保育園は1歳児からですが、私立は何園か0歳児から預かっておりまして、私の園でもやっております。保育園の場合は月に一度は身体測定のようなことをしたり、小さい子はおしめの取りかえがあったり等で、子どもたちの体を見る機会が多いので、虐待かどうかというあざに気づいたり、冬でも夏の服、どう見ても指が出ているような靴をずっと履いていて、親に言っても相手にしてくれない場合もあり、園でも対応が困ることもあります。子ども家庭支援センターにご相談することもあるし、民生委員に様子を見ていただくこともあります。

また、発達障害らしい子を見つけた場合にも保護者に話をするのですが、

なかなか認めていただけない方もいて、そういう場合でもできるだけ訪問に行ったりして助けるようにしています。区は何かあるとすぐ相談に乗っていただけますし、医師会にご相談することもありますし、いろいろな立場の方にご相談することがあると思いますので、これからもよろしく願いいたします。

(宮本委員) 私たちは青少年を対象にした健全育成が主な活動となっております。子どもたちが豊かな人間性を育むための体験活動を地域で展開している団体とともに活動することが多いです。支援という形ですと、教育研究所が行っている小・中学生の不登校の子どもたちの支援事業にも関わっています。中高生支援では、共育プラザで赤ちゃんと中高生が触れ合えるような機会にも積極的に関わるようにしています。

先日「おとなりさん」事業について、森課長に定例会でご説明いただきました。青少年委員にもこういうことがとても大切だ、必要なことだという声も出ておりますので、積極的に声かけをさせていただきたいと思います。

今日は青少年委員という形で出ておりますが、人権擁護委員もさせていただいております。子どもたちには子どもの人権があります。人権擁護委員が、子どもたちにSOSミニレターという形で学校に配付させていただき、全国的に展開している事業があります。子どもたちが本当に困っていること、虐待やいじめ、家庭的な問題も含めて出していただき、それに対応していくという事業です。そのように健全育成と虐待・いじめはとても深い関わりがある問題なので、私自身その二つに関わらせていただく立場として、今後両方に話をしていけたらと思っています。

(三輪委員長) 私も、一言述べさせていただきたいと思います。

江戸川総合人生大学の子ども・子育て応援学科の学科長も9年目に入りました。子ども・子育て応援学科はこの会議の名称を使わせていただいたところなのですが、受講生と一緒になぜ「応援」という言葉を使うのだろうか、「応援」とは何だろうかという議論をしています。実際にボランティア活動をしたり、意見を聞いたりもしています。

子どもは様々な課題を抱えていますし、子育てをしている保護者もいろいろな課題を抱えています。最初、学科生がボランティアやフィールドに入るときは、「私たち大人が何とか指導しないといけない」という考えで入っていくのですが、それが段々変わっていきます。子ども一人ひとりが何を考えているか、どんな悩みを抱えているか、子育てが大変な親はなぜ大変になっているのかということなどを段々と聞く姿勢が変わっていきます。最終的に、子どもが自分の問題として解決する主体になっていく、親が自分の問題として考え成長していく、そのための応援をするというふうに、学科生が活動に関わりながら変わっていくところが、私は関わっていてすごいなと思います。「応援」という言葉は結構深く、ただ問題を抱えている子どもや親をよくす

ればいいだけでなく、関わっている自分たち自身の成長の機会になっていく。お互いが学び合って成長するというのが、これからも江戸川区の中で様々な展開すると思います。

学科生の中で一番変わるのが男性です。子育て経験がほとんどないので、最初はどなり込むぐらいの関わり方から、段々と子どもの現状を知って支えるようになっていきます。ただ、子ども・子育て応援学科に来る男性は極めて少ないので、もう少し男性がこういう分野に関われるようにするにはどうしたらいいのかと思っています。

## 6 閉会

(三輪委員長) これで意見交換を終了します。今日の意見を何らかの形で施策に反映していただければと思います。

私たちメンバーだけでなく、多くの区民の意見もいただけると良いと思いますので、皆様お一人おひとりが子育て支援のサポーターとして、それぞれの立場でこの応援会議のことをPRしていただければと思います。本当にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。